

桜の寿命、戦争から70年、医療の方向性ところ (2015.5.1)

今年の桜の開花は先月の16日でした。

枝の傷のひどい所を剪定した関係で、咲振りはやや寂しげになりましたが、そのうち盛り返してくれることでしょう。

各地のソメイヨシノの並木での樹木医の活躍が話題になりました。

実は我が家の桜も支柱を使つての補強にするかとも考えましたが、かなり太い部分での傷みが認められ、事故が起こらないようにしました。

枝垂れ桜は、200年とかの樹齢になるようですが、染井吉野は長くて100年余だそうです。



戦後70年の挨拶をどう表現するかで、現政権はいろいろと物議を提供しているようです。

戦争責任について、以前の村山談話や小泉談話に記載された『侵略と戦争責任』の文言を入れるか否かの点です。

安倍首相は、これまでの二人の談話で表現されているので、あえてその文言を入れなくとも理解されるはずだとの見解です。

相手がどの様に理解するかは、こちらではどうしようもない事なので、いろいろな解釈の出来る表現では無く、誰が読んでも同じように読み取れる文言にするのが、一番良いのではないかと思います。

こちらでは、“こう考えて出したのに…”との後悔をしない為にもです。



国の医療の方向性は、少子高齢化社会を乗り切るために、これまで以上に療養の在宅化が進められております。

病院の急性期病床の削減や、入院日数の短縮化、難病や小児医療、そして精神科領域に至るまで、早期在宅化への推進、更には特養や老健施設への入所時の介護度による制限等々、全て財政面からの政策と理解出来る内容です。

家族構成の変化や、少子高齢化、老老介護、認認介護等、山積みになっていることを、全てクリアーしてしまう勢いですが、果たして一括りに扱えるものでしょうか？

きめ細かな配慮でのサービスこそが国民の望んでいる事なのです。



天井との睨めっこより、他の人達との語らいをお勧めいたします。

人間らしく振舞える事、時を過ごせる事これらが、“まさしく生き様”ですよ。